

株式会社トミー
〒124-8511 東京都葛飾区立石7-9-10

お問い合わせ先
TEL 03-3693-9033

ホームページアドレス
<http://www.tomy.com>

(事業報告書などのIR情報も当社のホームページでご覧になれます。)

- 決算期 毎年3月31日
- 定時株主総会 6月中
- 基準日 定時株主総会については毎年3月31日、その他必要があるときはあらかじめ公告する一定の日
- 配当受領株主確定日 毎年3月31日及び中間配当を行うときは9月30日
- 1単元の株式の数 100株
- 公告掲載新聞 東京都において発行される日本経済新聞
- 名義書換代理人 中央三井信託銀行株式会社
東京都港区芝三丁目33番1号
- 同事務取扱所 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部
〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
- 郵便物送付及び電話照会先 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部
〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
03(3323)7111(代表)
- 同取次所 中央三井信託銀行株式会社 全国各支店
日本証券代行株式会社 本店および全国各支店

(お知らせ)

住所変更、単元未満株式買取請求、名義書換請求、配当金振込指定に必要な各用紙のご請求は名義書換代理人のフリーダイヤル0120-87-2031で24時間受付しております。

2004
Dream[☺]

第53期 事業報告書

平成15年4月1日～平成16年3月31日

TOMY
Dream Energy



Message
Topics
Report
Network
History
Summary

株式会社トミー

株主の皆様へ

平素は株主の皆様にとにかく感謝申し上げます。

私たちはトミーは、収益力回復に重点を置いた「緊急施策」やその他の継続的な改革を進めてきており、経営体質は強化されてきたと認識しております。そこで、今後の新たな飛躍を目指し、当社は平成16年4月から3ヵ年中期経営計画をスタートさせました。「21世紀のおもちゃ」として「新しい遊びの価値を創造」することを企業ビジョンとしてかかげ、「利益ある成長」を目標に、売上・収益力の拡大、高い効率性を追求する計画であり、この達成を新たな課題といたします。この主な内容について、その方針や戦略などこれからお話したいと思います。

中期経営計画の概要

I 中期経営方針

- ①事業ユニットの創造
- ②年齢に関係ない事業群による市場の創出
- ③コンテンツ事業の成功
- ④ディズニー事業の成功
- ⑤北米市場の拡販・中国市場への参入

II 事業戦略

以下の3つの軸と3つの力を展開・強化し「利益ある成長」を目指してまいります。

3つの軸：ライフスタイル軸・事業ドメイン軸・グローバル軸

3つの力：マーケティング力・コンテンツ力・開発力

具体的には「のほほん族」の成功ノウハウを活かし、エイジレスエイジコンセプト商品[※]の開発を行い、ライフスタイル軸を展開してまいります。また、コンテンツ事業戦略本部がコンテンツ力強化の担い手となり、トイ周辺領域の拡大を図り、事業ドメイン軸を展開してまいります。さらに、国際事業本部が担い手となり、世界中で売れて利益がでるもの＝「世界戦略商品」として位置づけシリーズ展開し、グローバル市場を攻略してまいります。

※エイジレスエイジコンセプト商品：年齢に関係のない商品を言う。

III 機能戦略

①開発戦略

知的財産のグループ内蓄積を推進する一方、企画・開発パートナーに対しては共有共栄構想に基づくネットワークの再構築を行い、企画・開発ネットワーク活用と内部開発の両輪を強化してまいります。

②生産戦略

子会社である(株)トミーデベロップメントセンターは技術、生産の統括を行い、品質・安全の向上やコストダウン構造構築の役割を担ってまいります。TOMY (THAILAND) LTD.は世界一効率のいい安心できる玩具製品の工場を目指し、TOMY (HONG KONG) LTD.はトミーグループの集中調達オフィス化と高度化を進め、シンセン(中国)にある技術センターは生産のため、技術の集約を図ってまいります。

③販売・流通戦略

お客様の視点に立った什器などによる売り場の整備、大型量販店に対する直販体制の機能の強化、新規販売チャネル拡大や新販路向けの新商品開発などを行います。また、営業政策面では組織横断的な営業戦略会議を設置し、市場の変化に即応し、グループ全体の営業方針・流通戦略の立案・推進を行ってまいります。

④物流戦略

SCM(サプライチェーンマネジメント)を強化し、海外・国内を包含する物流オペレーションの一元管理を図ることによって、物流コストを削減してまいります。

当社は企画立案から生産・販売まで業界および社内基準に基づいて商品の安全性に努めてまいりましたが、「マグナム・パトローラー」の事故を真摯に受け止め、更なるリスク管理体制の強化を図っております。2月21日付で組織変更を行い、「安全・環境統括室」を新設し、安全性の観点により、製品安全基準の見直し、安全基準に基づき開発から製品完成時までの各段階での安全性の判断および事故原因の究明と対策を図っております。また、「安

全・品質情報チーム」を設置し、製品別の安全・品質情報の収集、分析および開示を行っております。このようなことを通じて、従来以上に安全で高品質な商品を提供してまいります。

本年は創立80周年となります。私たちトミーも限りない夢を抱いて躍進していきたいと考えております。株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長
富山 幹太郎

株主の皆様へ
Message

トピックス

決算情報
Report

ネットワーク
Network

ヒストリー
History

会社概要
Summary

目指すは表彰台の常連!?

春も秋も、ギフトショーの話題をさらいます。

「マイクロペット」「のほほん族」「ゆびのりピピ」、そして「キグルミクス」といった話題商品を次々発売し、「玩具領域外の開拓」を着実に実現してきた「新規事業グループ」は、2004年2月、人々の生活を笑顔で満たすことを目指し、グループ名を「スマイフ事業グループ」と改称いたしました。

毎年春と秋、業界の枠を超え、様々な業種から雑貨商材が出品展示される「東京国際ナショナルギフトショー」が開催されます。このギフトショーでは、毎回出品された数多くの新製品の中から、優れた商品を来場者の投票で決定するコンテストが実施されています。昨年秋、このギフトショーのグランプリに輝いたのは、音に反応して陽気に踊る

ボトルキャップフィギュア「キグルミクス」でした。そして今年春には、光を浴びてゆらゆらと双葉が揺れるインテリア雑貨「Flip Flap(フリップフラップ)」が、新製品コンテストの大賞を受賞しました。この来場者の評価は、そのまま市場の評価と結びつき、「キグルミクス」も「Flip Flap(フリップフラップ)」も、発売以来人気を博しています。

「玩具領域外」という混戦必至の市場において、スマイフ事業グループから生まれた商品は、着実にファンを広げ、高い評価をされつつあります。今後もスマイフ事業グループでは、玩具の枠にとらわれない自由な発想と斬新なマーケティング展開により、市場の期待に応える商品展開を行ってまいります。



表彰式に参加したおっきなキグルミクス



光を浴びてゆらゆら双葉が揺れる「Flip Flap」

海洋堂の技が光る!

ファン待望のポケモンフィギュアついに登場!



本格バトルゲームも楽しめる「ポケモンバトルフィギュア」

© KAIYODO2004
© Nintendo・Creatures・GAME FREAK・TV Tokyo・ShoPro・JR Kikaku
© Pokémon

足以来、オリジナルコンテンツのトミカ・プラレールやディズニーキャラクターを活用した展開で、後発ながら玩具菓子市場の注目を集めるキャンディ玩具事業部では、精巧な造形とその完成度で絶大な人気を誇る造形師集団 海洋堂とのコラボレーションを実現し、2004年3月、ファン待望のポケモンフィギュアを発売いたしました。「ポケモンバトルフィギュア」は、ポケットモンスターの世界観を踏まえ、それぞれのキャラクターを精巧な造形で再現しており、ポケモン

の特徴である「集めて遊ぶ」に加え、「鑑賞して楽しむ」要素が盛り込まれています。また、フィギュアを使用して、大人でも満足できるゲーム性を追加することで、遊びの幅を広げました。

第1弾の好評を受けてすでに第2弾の発売も予定されており、今後はますます海洋堂ファン、フィギュアファン、そしてポケモンファンを夢中にさせる充実のラインナップを目指してまいります。

30代40代は働き盛り

「トミカ」「プラレール」はますます元気です!



トミカ・プラレールのすべてが揃う「トミカプラレールショップ」(北海道旭川市のおもちゃのヨシダ)

「トミカ」「プラレール」の世界観を広く知ってもらいたい、売り場からたくさんの情報発信をしていきたい、そしてなにより「トミカ」「プラレール」を通じて、世代を超えた笑顔の集まる場所をつくりたい…今年、「トミカ」「プラレール」のすべてが揃う「トミカプラレールショップ」を、全国20ヶ所を目標に展開いたします。ここでは、「トミカ」「プラレール」の品揃えはもちろん、アパレル、文具、生活用品、書籍、食品など、関連商品の充実や、巨大ジオラマの設置、ミニイベントの開催なども行い、「モ

ノ」も「コト」も、「トミカ」「プラレール」に関するすべてに満足できる売り場の提案を行ってまいります。

ライフサイクルが短いといわれる玩具業界にあって、今年34周年を迎える「トミカ」、45周年を迎える「プラレール」は、異彩を放つロングセラー商品として、親子2世代3世代に愛され続けています。わたしたちは、この素晴らしい財産を磨き上げ、光輝かせるために、昨秋発足したコンテンツ事業戦略本部を中心としてさらなるブランドの強化を図ってまいります。

株主の皆様へ
Message

トピックス
Topics

決算情報

ネットワーク
Network

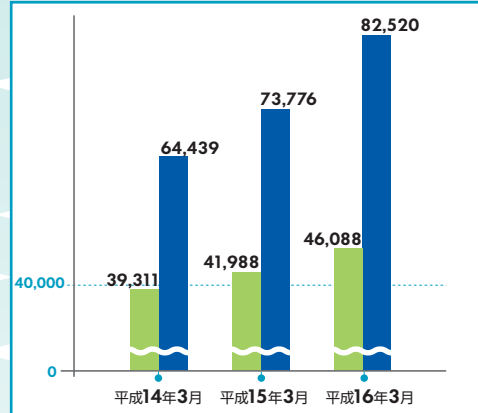
ヒストリー
History

会社概要
Summary

業績の推移

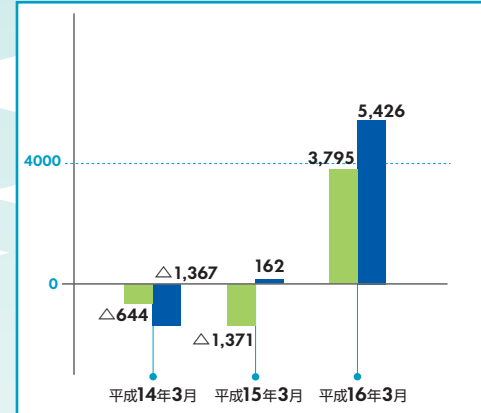
売上高

(単位:百万円)



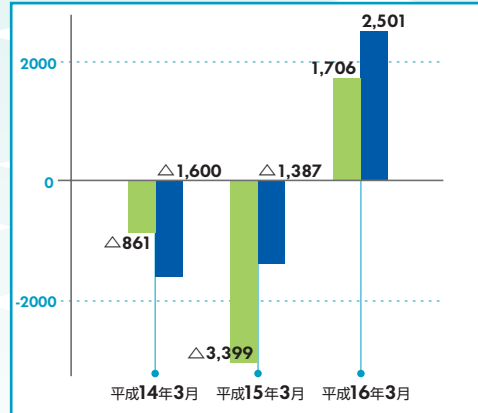
経常利益

(単位:百万円)



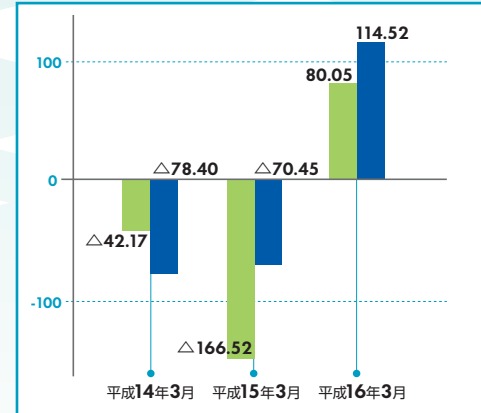
当期純利益

(単位:百万円)



1株あたり当期純利益

(単位:円)



連結

当期業績の推移

当期における日本経済は企業収益、輸出の回復が設備投資に繋がり、期後半には雇用・所得環境の改善から、個人消費も緩やかに回復してきました。しかしながら、玩具業界では全体として、少子化、遊びの多様化が進むなか、市場を牽引するヒット商品に欠け、引き続き低調なまま推移しました。

こうしたなかで、当社グループは経営体質の改善、収益の向上に取り組んでまいりました。当社単体の収益力の回復を最優先とした、コストダウンおよび在庫管理の徹底などによる売上原価の削減と、希望退職者の募集などによる人件費を中心とした販管費の削減などの「緊急施策」を実施し、さらには資産効率向上に向けて非効率資産の処分などにより、バランス・シートのスリム化とキャッシュ・フローの改善をしてまいりました。また、4事業本部か

らなる本格的な事業本部制の導入を実施し、さらには、子会社の役割分担の明確化を図り、グループ連結経営を一層強化するなど、利益体質の強化に向けた構造改革を積極的に推進してまいりました。下期には「コンテンツ事業戦略本部」を設置し、ディズニー、ポケットモンスターなどのキャラクターパワーを最大化し、当社、グループ企業並びに、パートナー企業が商品の企画・開発を行うことによりビジネスチャンスを活かすと共に、また、トミカブレード・ゾイドなどの自社コンテンツを玩具以外の分野にも展開していきました。

事業面では、当社グループは「マイクロエンターテインメント構想」に基づくオリジナル商品のマーケティングを海外販売子会社を含め、更に推進するとともに、当期の最重点事業としてディズニー事業の拡大にグ

ループを挙げて積極的に取り組んでまいりました。また、今後の成長の鍵となるトイ周辺事業の一つとして、人気キャラクターの獲得などにより、ゲームソフト等のデジタル分野の強化に努めてまいりました。

以上により、当期は売上高が82,520百万円(前期比11.9%増)となったうえに、上記の「緊急施策」やその他の継続的な改革の実施により、特に、当社単体での原価率の改善と販管費の削減が進んだ結果、

利益面で大きく回復し、営業利益は6,036百万円(同5.2倍)、経常利益は5,426百万円(同33.5倍)となりました。最終損益の段階ではマグナム・パトローラーの自主回収に伴う費用を特別損失10億円と計上した結果、当期純利益は2,501百万円(前期は1,387百万円の損失)となりました。

事業別連結売上高の推移

(単位:百万円、%)

	当期		前期	
	金額	構成比	金額	構成比
玩具事業	79,984	96.9	71,607	97.1
その他の事業	2,535	3.1	2,169	2.9
合計	82,520	100.0	73,776	100.0

株主の皆様へ
Message

トピックス
Topics

決算情報

ネットワーク
Network

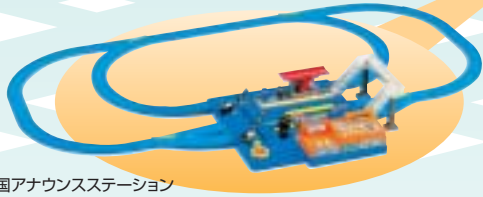
ヒストリー
History

会社概要
Summary

事業別連結売上高の状況 当期 82,520百万円



高速道路にぎやかドライブ



日本全国アナウンスステーション



プリンセスシリーズ 魔法ステッキ/ブルードレス © Disney



マイクロベビー



ゆびのりピビ

玩具事業

定番商品の主力であるトミカ、プラレールが企画の拡充や売場の再整備などにより、トミカワールドの新シリーズ「高速道路にぎやかドライブ」、プラレールの「日本全国アナウンスステーション」等を中心に売上が堅調に推移しました。

ディズニー関連商品の売上も当社のプリンセスシリーズ、ベビートイを含む商品群に加え、子会社(株)ハートランドのぬいぐるみなど、子会社を含めた幅広い分野での商品展開により、引き続き増加しました。また、「マイクロエンターテイメント構想」に基づくオリジナル商品として、マイクロペットに次いで国内で発売した「ゆびのりピビ」や、欧米で発売した「マイクロベビー」が人気を集め、売上に貢献しまし

た。さらに、人気キャラクター「ナルト」を使用したゲームソフトが、ゲームとしての面白さに加え、強力な流通網を持つ任天堂(株)との提携などにより、売上に大きく寄与しました。「ポケモン図鑑アドバンス」等ポケットモンスター関連商品もゲームソフトでの人気再燃、スポンサー各社等が映画を中心としたメディアミックス戦略の成功により、売上が大きく伸びたほか、息の長い「ミメル」シリーズ中の新商品で写真も撮れる「ミメルショット」等も支持を得ました。この結果、玩具事業全体の売上高は79,984百万円(前期比11.7%増)となりました。

その他の事業

ポケットモンスター関連の収入などが伸び、その他の事業全体の売上高は2,535百万円(前期比16.9%増)となりました。



「NARUTO -ナルト- 忍術全開!最強忍者大結集」▲
GAME BOY ADVANCE・ゲームボーイアドバンスは任天堂の登録商標です。
© 岸本斉史 スコット/集英社・テレビ東京・びえろ ©2003 TOMY

◀NARUTO 激闘忍者大戦!!
© および ぬいぐるみは任天堂の登録商標です。商標登録第4803569号、第4468776号
© 岸本斉史 スコット/集英社・テレビ東京・びえろ ©2003 TOMY



ポケモン図鑑アドバンス
© Nintendo・Creatures GAME FREAK・TV Tokyo・ShoPro・JR Kikkaku
© Pokémon



ミメルショット



株主の皆様へ
Message

トピックス
Topics

決算情報

ネットワーク
Network

ヒストリー
History

会社概要
Summary

連結貸借対照表

(単位:百万円)

	科目		金額	
	当期 平成16年3月31日 現在	前期 平成15年3月31日 現在		
流動資産 転換社債の償還原資に充てるため、現金及び預金を取り崩し、有価証券も売却しました。	資産の部			
	流動資産	36,606	44,317	
	固定資産	10,941	12,808	
	繰延資産	20	25	
	資産合計	47,568	57,150	
固定資産 今期大幅に収益が回復したために、前期末の繰越欠損金が減少し、繰延税金資産が減少しました。	負債の部			
	流動負債	18,040	30,718	
	固定負債	8,422	7,889	
	負債合計	26,463	38,607	
流動負債 償還期限が1年以内の転換社債(99億円)が償還され、コミットメントラインの設定により短期借入金を返済したために減少しました。	少数株主持分			
	少数株主持分	267	64	
固定負債 8億円の社債(私募債)を発行したため増加しました。	資本の部			
	資本金	2,989	2,989	
	資本剰余金	2,936	2,936	
	利益剰余金	16,533	14,078	
	土地再評価差額金	25	25	
	その他の有価証券評価差額金	135	△118	
	自己株式	△12	△8	
	資本合計	20,837	18,477	
利益剰余金 今期大幅に収益が回復したために、増加しました。	負債、少数株主持分及び資本合計	47,568	57,150	

連結損益計算書

(単位:百万円)

	科目		金額	
	当期 平成15年4月1日 から 平成16年3月31日 まで	前期 平成14年4月1日 から 平成15年3月31日 まで		
売上高 マイクロシリーズをはじめとしたオリジナル商品や、ディズニー関連商品、ゲームソフトなどが好調に推移し、増加しました。	売上高	82,520	73,776	
売上原価 特に、単体での売上に占める利益率の高い商品・継続品の比率向上や、コストダウン等による原価率の改善が寄与し、全体の売上原価率も低下しました。	売上原価	50,939	47,943	
販売費及び一般管理費 単体での人件費などの削減が進んだことにより、売上高の増加と相俟って対売上高比率も低下しました。	売上総利益	31,580	25,832	
	販売費及び一般管理費	25,543	24,678	
	営業利益	6,036	1,154	
	営業外収益	244	391	
	営業外費用	854	1,383	
	経常利益	5,426	162	
	特別利益	52	104	
	特別損失	1,314	1,417	
	税金等調整前当期純利益	4,165	△1,150	
	法人税、住民税及び事業税	839	906	
	還付法人税等	—	△170	
	少数株主利益	46	33	
	当期純利益	2,501	△1,387	

株主の皆様へ
Message

トピックス
Topics

決算情報

ネットワーク
Network

ヒストリー
History

会社概要
Summary

連結キャッシュ・フローの状況

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	金額	
	当期 平成15年4月1日 から 平成16年3月31日 まで	前期 平成14年4月1日 から 平成15年3月31日 まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,141	3,079
うち、税金等調整前当期純損益	4,165	△1,150
売上債権の増減額	△555	1,123
たな卸資産の増減額	△313	97
法人税等の支払額	△850	△572
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,448	△2,744
うち、有価証券の取得による支出	△1,598	△1,534
有価証券の売却による収入	4,377	614
有形固定資産の取得による支出	△1,714	△2,219
財務活動によるキャッシュ・フロー	△13,562	5,596
うち、短期借入金の純増減額	△4,749	2,021
長期借入による収入	600	3,600
転換社債の償還	△9,965	—
現金及び現金同等物 中間期末(期末)残高	15,349	21,513

当期は営業活動によるキャッシュ・フローが大幅に増加し、投資活動によるキャッシュ・フローはプラスとなる一方で、財務活動によるキャッシュ・フローがマイナスとなり、連結ベースの現金及び現金同等物の当期末残高は、前期末と比較して6,163百万円減少し、15,349百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、6,141百万円の収入となりました。これは主として、税金等調整前当期純利益の大幅な改善によるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フロー

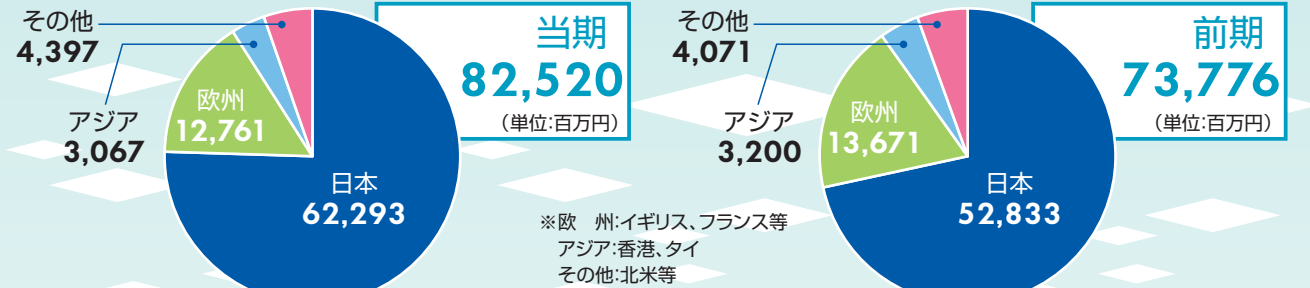
投資活動によるキャッシュ・フローは、1,448百万円の収入となりました。これは主として、有価証券や投資有価証券の売却などによるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フロー

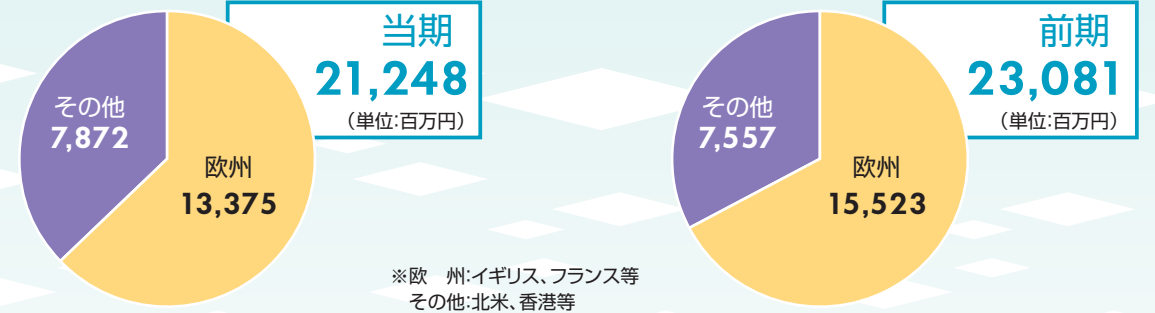
財務活動によるキャッシュ・フローは、13,562百万円の支出となりました。これは主として、99億円の転換社債の償還などによるものであります。

セグメント情報

所在地別連結売上高



連結海外売上高



Report

決算情報

単体

株主の皆様へ
Message

トピックス
Topics

決算情報

ネットワーク
Network

ヒストリー
History

会社概要
Summary

単体貸借対照表

(単位:百万円)

科目	金額	
	当期 平成16年 3月31日現在	前期 平成15年 3月31日現在
資産の部		
流動資産	22,837	31,156
固定資産	12,795	14,548
繰延資産	20	25
資産合計	35,653	45,729
負債の部		
流動負債	9,914	20,915
固定負債	8,400	9,442
負債合計	18,315	30,358
資本の部		
資本金	2,989	2,989
資本剰余金	2,936	2,936
利益剰余金	11,263	9,557
土地再評価差額金	25	25
その他の有価証券評価差額金	133	△130
自己株式	△12	△8
資本合計	17,337	15,371
負債、資本合計	35,653	45,729

単体損益計算書

(単位:百万円)

科目	金額	
	当期 平成15年4月1日から 平成16年3月31日まで	前期 平成14年4月1日から 平成15年3月31日まで
売上高	46,088	41,988
売上原価	29,963	29,838
売上総利益	16,125	12,149
販売費及び一般管理費	12,478	13,614
営業利益	3,646	△1,464
営業外収益	913	766
営業外費用	764	673
経常利益	3,795	△1,371
特別利益	1,538	3
特別損失	2,623	1,725
税引前当期純利益	2,710	△3,094
法人税、住民税及び事業税	106	0
還付法人税等	—	△166
法人税等調整額	898	472
当期純利益	1,706	△3,399
前期繰越利益	424	628
当期末処分利益	2,131	△2,770

利益処分

(単位:百万円)

科目	金額	
	当期 平成15年4月1日から平成16年3月31日まで	
当期末処分利益		2,131
任意積立金取崩額		
固定資産圧縮積立金取崩額	2	
国庫補助金圧縮積立金取崩額	—	
別途積立金取崩額	—	2
合計		2,133
これを次のとおり処分いたしました。		
配当金	204	
役員賞与金	72	
任意積立金		
(1) 別途積立金	1,500	
(2) 固定資産圧縮積立金等調整額	—	1,776
次期繰越利益		356

ネットワーク

株主の皆様へ
Message

トピックス
Topics

決算情報
Report

ネットワーク

ヒストリー
History

会社概要
Summary

海外ネットワーク

欧州

欧州では北米に次いで大きな玩具市場が形成されております。

1982年英国に設立したTOMY UK LTD. は、フランス、ベルギーを除く欧州全域において販売を行っており、英国の幼児玩具の分野では、トップクラスの地位を誇っております。この幼児玩具部門を安定基盤として、カプセルトイの分野にも進出するなど、同社は事業領域の拡大にも注力しております。

1985年フランスに設立したTOMY FRANCE SARL. はフランス、ベルギーでの販売を担当しております。

当期は「マイクロエンターテインメント構想」のもと、前期のマイクロペットについて発売されたマイクロベビーが売上に貢献しております。今後、2社の機能統合を軌道に乗せ、欧州における拡販を目指してまいります。



TOMY UK LTD.



TOMY FRANCE SARL.

アジア

アジアは当社の海外進出の最初の地であり、1970年香港に設立したTOMY (HONG KONG) LTD. がその第一歩となりました。以来、現地の玩具製造業者と技術力、品質管理能力を共有し、優れた商品を世界に提供しております。その品質の高さを裏づけるように、国際標準規格「ISO 09001」を取得、その後、環境管理に関する国際標準規格「ISO 14001」も取得しております。同社はグループ内への商品供給のほか、トミカ、プラレール、ゾイド等の定番・オリジナル商品やディズニー関連商品などのアジア向け外部販売にも注力しております。

1987年タイに設立したTOMY (THAILAND) LTD. は、自前の工場と1000人を超える従業員を有しており、香港同様、トミーグループにおける一大生産拠点となっております。同社は「ISO 09002」を取得しており、コストダウン、生産効率向上に継続して取り組み、世界一効率のいい安心できる品質の工場を目指します。また、消費地として今後大きな期待ができる中国においては今期に上海オフィスを開設し、販売拠点といたします。



TOMY (THAILAND) LTD.



TOMY (HONG KONG) LTD.

株主の皆様へ
Message

トピックス
Topics

決算情報
Report

ネットワーク

ヒストリー
History

会社概要
Summary

海外ネットワーク

北米

当社は1973年から世界最大の玩具市場である北米に進出しており、1998年に、それまでの販売子会社を閉鎖し、TOMY CORPORATIONを設立しました。当初は当社グループ商品のウォルマート、トイザラスなどへの販売支援と情報収集を主な業務としておりましたが、前期より本格的に販売業務に取り組み、米国でのマーケティングを推進しております。当期は昨年のマイクロペットに次いでマイクロベビーを日本、欧州などに先行して販売しました。また、「トーマスプラレール」「マイクロベビー」の売上が大きく伸びました。これにより、同社の収益は前期に引き続き大きく伸びております。また、1999年に当社の子会社(株)ユージンと共同でTOMY YUJIN CORPORATIONを設立し、カプセルトイの販売を開始しました。売上規模はまだ小さいながら、ウォルマート等の主力店舗へのマシンの設置数の増加に伴い着実に伸びており、今後の成長が期待されます。中期的にはカテゴリーを定番化・拡大し、平成19年度には売上1億ドルを目標としてまいります。



TOMY CORPORATION
TOMY YUJIN CORPORATION

国内ネットワーク

本社・営業所

- 本社 〒124-8511 東京都葛飾区立石7-9-10
- 東日本営業所 〒103-0004 東京都中央区東日本橋1-1-5 日幸東日本橋ビル
- 西日本営業所 〒532-0003 大阪府大阪市淀川区宮原4-3-7 理想新大阪ビル6F
- 名古屋出張所 〒453-0801 愛知県名古屋市中村区太閤1-20-13 秀幸ビル2F (玩具菓子事業のみ)

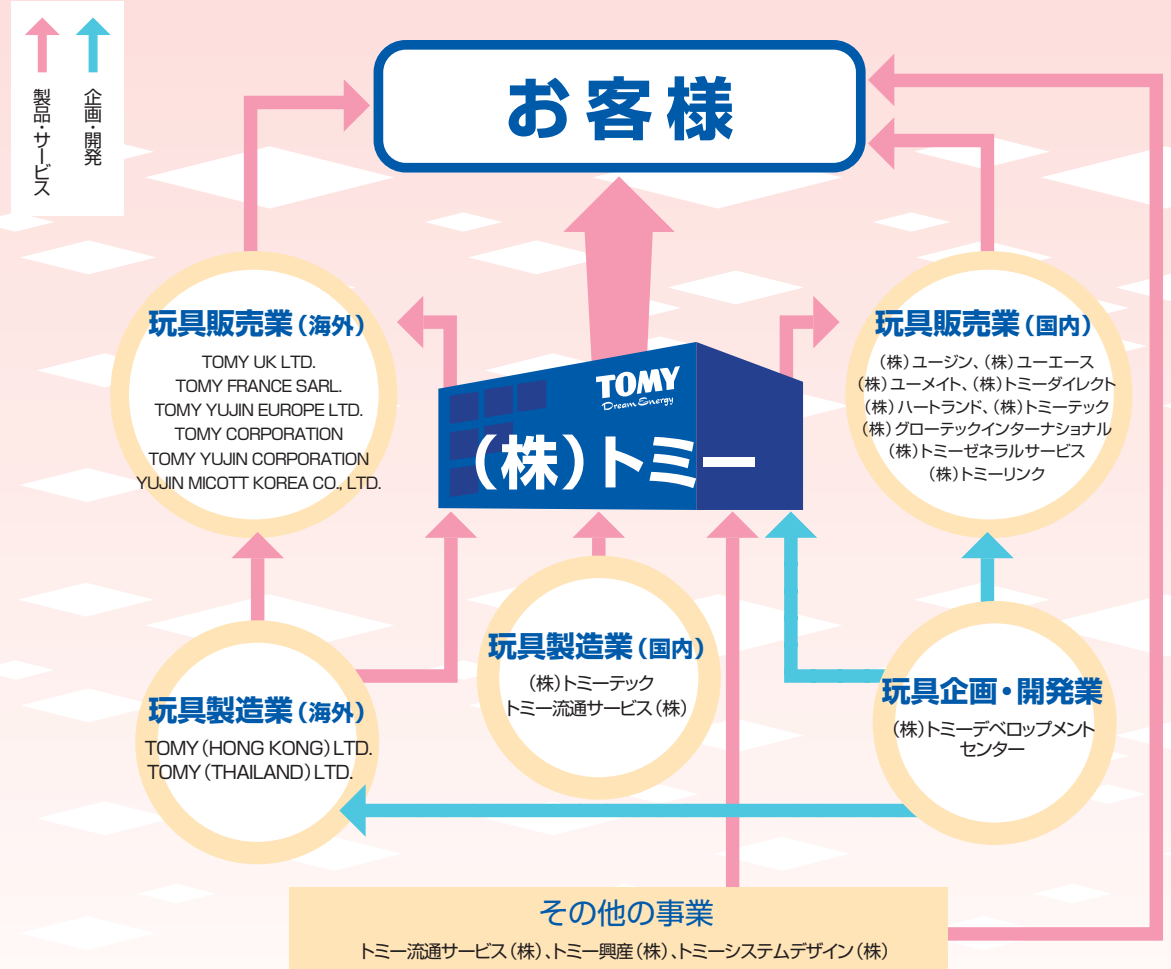


トミー本社

国内子会社(13社)

- | | |
|--------------------------------|-------------------------------|
| ● 小物玩具販売 (株)ユージン | ● 玩具類の企画開発 (株)トミーデベロップメントセンター |
| ● 玩具雑貨卸販売 (株)ユーエース | ● 物流サービス トミー流通サービス(株) |
| ● 生活雑貨販売 (株)ユーメイト | ● 書籍販売・不動産賃貸 トミー興産(株) |
| ● 玩具輸入販売 (株)トミーダイレクト | ● システム企画 トミーシステムデザイン(株) |
| ● 玩具雑貨販売 (株)ハートランド | ● アフターサービス (株)トミーゼネラルサービス |
| ● 玩具類の製造販売 (株)トミーテック | |
| ● 玩具雑貨の企画販売 (株)グローテックインターナショナル | |
| ● 玩具雑貨の企画販売 (株)トミーリンク | |

トミーグループの状況



History

ヒストリー

TOMY'S HISTORY (PART3)

株主の皆様へ
Message

トピックス
Topics

決算情報
Report

ネットワーク
Network

ヒストリー

会社概要
Summary

栃木県を走る東武宇都宮線にはなんとも夢のある駅名が存在する。「おもちゃのまち駅」——
創業者 富山栄市郎の命名によるこの駅名には、業界の発展を心から願った男の熱い思いが込められている。玩具産業を近代産業の位置にまで高めようと努力し続けた栄市郎にとって、その道のりは決して平坦なものではなかったが、彼のおもちゃに対する深い愛情と情熱が、行く手を拓き、その先にひとすじの確かな光を照らしていたのかもしれない。

玩具製造を再開した富山玩具製作所(後の三陽工業(株))は、「B29」「シャボン玉を吹く象」といったヒット商品を次々に世に送り出していきます。しかしながら、市場の情報を疎いメーカーがいかにか危ういものかということをもつて知る栄市郎には、どうしても成し遂げなければならない課題がありました。「自分で作った製品を自分で売る」…この一見あたりまえの決断は、製造問屋の存在が大きかった当時の玩具業界に激震をもたらしました。

それでも栄市郎は、マーケティングを駆使した販売戦略を自らの手で行うこと、そして市場の声を商品の企画・開発に活かすことに執着します。昭和34年、ついに栄市郎にとって宿願であった販売会社 富山商事株式会社が創立されました。富山商事の船出にふさわしい画期的な新製品を…栄市郎の号令のもと開発が進められたのは、当時としては画期的なオール・プラスチック製の「スカイピンポン」でした。今だ金属玩具が主流のこの時代に、オール・プラスチック製の玩具を発売することができたのは、すでにそ

の10年も前に、アメリカ製玩具に使用されていた樹脂歯車の強靱さに驚き、この技術の取得に努めてきた結果であったと言えます。こうして、プラスチック技術修得という試行錯誤の10年を経て、記念すべき富山商事の第一号商品「スカイピンポン」は発売され、自らの手によるマーケティング戦略も奏効し、大成功を収めることとなりました。さらに、「ヒットのあとに潜む停滞」の怖さを知る栄市郎は、その手を休めることなく、次なる商品開発へとチャレンジを続け、ロングセラー商品「プラレールシリーズ」「トミカシリーズ」をはじめ、数々のヒット商品を誕生させていきます。

この頃栄市郎は、自社の事業は重要な決定を除き息子である専務の允就らに任せ、自身は業界活動に専念するようになっていました。日本の代表的な輸出産業であるはずの玩具は、「文化」であるべきにもかかわらず、製造に携わる者たちの立場はとても弱く、団結することの必要性を栄市郎は常に感じていたのです。材料の共同購入、金属玩具工業会館の建設、そして伊勢湾台風に端を発し、災害を未然に防ぐ「工場疎開」という発想に基づいて推進された栃木県壬生町のおもちゃ団地建設…すべてが玩具製造業界の近代化へとつながるものでした。

昭和38年、国内販売の足場を固めた三陽工業(製造部門)と富山商事(販売部門)は、次なる成長として国際市場への拡大を目指し、海外で知名度のある「トミヤーマ」に拠る「トミー」へと商号変更を行い、新鮮なイメージで出発することとなります。そして国際市場への拡大は、昭和45年の香港を皮切りに、シンガポール、アメリカ、そしてドイツと着実に遂行されていくこととなります。

創業50周年を迎えた昭和49年、栄市郎は社長を辞し、富山允就を社長とする新体制が誕生しました。この頃のトミーは、允就を中心とする若い経営陣、開発陣によって数々のヒット商品を創出し、そのアイデアと技術力で国内外の高い評価を得る、まさに黄金期ともいえる時期を迎えていました。

巨星陥つ —— 人を活かし、人を育て、トミーの発展と業界の発展と、なんら隔てることなく力を注ぎ続けた富山栄市郎は、昭和53年9月1日、帰らぬ人となりました。



富山商事外観▲
スカイピンポン▶

Summary

会社概要



会社概要 平成16年6月25日現在

商号 株式会社トミー
所在地 東京都葛飾区立石7丁目9番10号
設立 昭和28年1月17日(創業大正13年)
資本金 29億8,994万円
発行済株式総数 20,419,299株
主な事業内容 1. 各種玩具雑貨、食品付玩具類の企画・製造・販売ならびに輸出入
2. テレビゲームソフト、幼児関係商品等の企画・製造ならびに販売
3. コンピュータのソフトウェアの企画・開発・製造ならびに販売

役員 代表取締役社長兼最高経営責任者 富山 幹太郎
専務取締役 グループ国内事業担当 奥秋 四良
兼コンテンツ事業戦略本部特命担当
常務取締役兼最高財務責任者 三浦 俊樹
常務取締役 グループ海外事業担当 高橋 勇
取締役兼常務執行役員 トイ事業本部長 柳澤 茂樹
取締役(生産・技術統括担当) 岡田 三郎
取締役 渡辺 泰行
取締役 新美 春之
常勤監査役 松葉 光雄
監査役 吉成 外史
監査役 梅田 常和
執行役員 コンテンツ事業戦略本部長 沢田 雅也
フロンティア事業本部長 神尾 俊二
インターナショナル事業本部長 杉山 和彦
管理本部長 田島 省二

従業員 277名(出向者、嘱託等を除く)(平成16年3月末現在)
取引銀行 三井住友銀行 みずほコーポレート銀行
東京三菱銀行 商工組合中央金庫
りそな銀行 足利銀行
東京市民銀行 千葉銀行
中央三井信託銀行

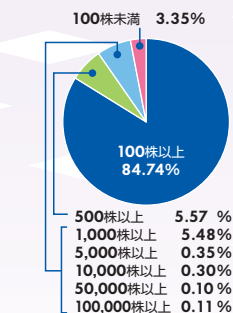
株式の状況 平成16年3月末現在

会社が発行する株式の総数 60,000,000株
発行済株式の総数 20,419,299株
1単元の株式数 100株
株主数 17,722名

大株主(上位10名) 当社への出資状況

株主名	持株数	議決権比率(%)
有限会社トミーインシュアランス	2,260,476	11.2
富山 幹太郎	1,963,500	9.8
富山 長次郎	1,856,000	9.2
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	1,112,700	5.5
東京中小企業投資育成株式会社	760,156	3.8
ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイ ロンドン	616,500	3.1
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	491,400	2.4
富山 優	480,882	2.4
司不動産合資会社	472,680	2.3
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (三井アセット信託銀行再信託分・ 株式会社三井住友銀行退職給付信託口)	450,000	2.2

所有株式数別株主数比率



所有者別株式数比率

